「地域の文化継承活動 助成事業」 地域と学校の文化活動を応援します

飯田市立遠山中学校

遠山郷の「霜月祭り」は湯立神楽の古い形態を今も伝承する、国指定重要無形民俗文化財です。遠山中学校の全校生徒は、霜月祭り保存会の皆様の指導のもと、祭りの神事である伝統的な舞を覚えます。地区によっては次代継承の担い手を期待され、本番の「霜月祭り」で、伝統の舞を披露します。

保存会からお借りする白装束などは神事で使う衣装のため大切に扱っています。今年度の事業では、遠山中学校に対して、衣装のクリーニング費用、小道具や足袋の購入費用を助成しました。

12 月 9 日 (土) に遠山郷の小道木 / 川合の「霜月祭り」が熊野神社で行われました。例大祭の神事はさまざまな内容で朝は 7 時 45 分から夜の 9 時まで行われました。神事の一つに「学童の舞」があります。地域の中高生が演舞者となり、夕方の 5 時 20 分から 40 分間で扇子舞、剣舞、天白の湯立ての神事が執り行われました。舞殿で取り囲む地域の皆さんの熱い視線が注がれるなか、太鼓と笛に合わせて迫力の舞が演じられました。神社の厳かな雰囲気の中で、素晴らしい舞に視線が釘付けになりました。「鎮めの湯」の神事を経て、神々の面が 37 面次々と登場しました。村内にまつる神々の登場で舞殿は湯釜を中心に賑やかになりました。今後も「霜月祭り」の伝統が引き継がれることを願っております。

「学童の舞」 中高生による四つ舞（扇子舞）

「学童の舞」 中高生による四つ舞（剣舞）

「面（37面）」 村内にまつる神々が舞殿を巡ります

劇団　すずの音

「劇団　すずの音」は、小学２年生から７０代まで幅広い年代で構成され、北安曇郡松川村を中心に、地方の民話を採りあげて上演しています。今年度の事業では、劇に使用する大道具・小道具・衣装の制作費用を助成しました。

11 月 19 日（日）には、松川村の「すずの音ホール」における第 14 回定期公演で、「大町市・安曇野に伝わる民話泉小太郎」が上演されました。人間に育てられた竜の子が、飢えや貧困に苦しむ村人のために、母竜と共に水害を引き起こす岩山を崩し、肥沃な農地を切り開くお話です。

今回の公演では、７人の子供たちが出演しました。小太郎、老夫婦、村の子供・年寄・大人たち、竜などを、出演者たちは堂々と自然体で演じ上げ、観客は、実在するかのような臨場感に引き込まれました。コミカルな場面では声を上げて笑い、みんなが心を一つに闘ったクライマックスでは目を潤ませ、すすり泣き、大団円のフィナーレには盛大に拍手を送りました。

舞台脇での「信濃國松川響岳太鼓」の迫力ある生演奏、宙を舞う竜や小太郎が跨る巨大な竜などの団員やボランティアの方々の手で作りあげた説得力のある造形・演出も、劇をより盛り上げました。子供たちにとっては特に、楽しく忘れ難い、故郷での経験になったことと思います。

小太郎が母竜に跨がるクライマックスシーン

「信濃國松川響岳太鼓」の力強い演奏

キャスト・スタッフで公演最後の舞台挨拶

詳細は、ウェブページをご参照ください。
https://www.82bunka.or.jp/grant/

飯島町の「わら細工」を広める活動　**飯島町立飯島中学校**

飯島町立飯島中学校３学年の生徒のみなさんは、米どころである飯島町の伝統的なわら細工の素晴らしさを広めたいと、令和６年 11 月に開催された、「第 12 回米俵マラソン」（約３kg の米俵を担いで５または 10㎞走るイベント）に参加しました。

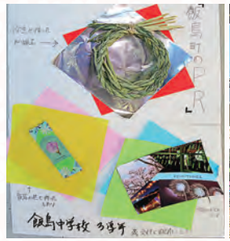
春日大社の式年造替に奉納するしめ縄などを手掛ける、地場の株式会社わらむの指導のもと、ミニ米俵に新米を入れた新商品「こめる」（32 個）を開発し、ランナーに配る「しめ飾り」や、ゴール地点に飾る「陣屋祭りの行燈」（10 年ぶりに復活）を製作しました。

１つ作るのに５時間を要した「こめる」は大変好評で、生徒自ら企画した特産品の売場では１時間で完売しました。また、生徒のみなさんは、大会の受付や給水、ゴール後の計測器の回収などの役割も担い、円滑な運営にも大いに貢献しました。

当日は快晴のもと、町内外から約 500 名のランナーが参加し、大会は大盛況・大成功でした。

生徒のみなさんからは「飯島の魅力を知ることができた」、「イベントの準備もイベント自体も楽しめた」などの声があがり、忘れ難い故郷での経験、継続的な文化継承活動参加への動機づけになったことと思います。

取材協力：飯島町立飯島中学校　教諭　鈴木雅美
　　八十二銀行飯島支店　支店長　岡田英樹


ランナーに配布した
わら細工やしおり

行燈は、切り絵を用いて製作された

製作したしめ縄。町に贈呈された

自分だけの「小沼ほうき」作り　**飯山市立常盤小学校**

飯山市立常盤小学校４年生のみなさんは、豪雪地帯の冬の副業として地元の小沼地区で生産され続けている、「小沼ほうき」について学んできました。「小沼ほうき」は使い勝手の良さ、丈夫さが大きな特徴で、長野県の伝統的工芸品にも指定されています。

「小沼ほうき振興会」の指導のもと、令和６年５月から８月にかけて、学校の畑に原材料である「ホウキモロコシ」（ほうき草）の種をまき、育て、収穫しました。乾燥させた材料を使って 11 月にいよいよ、「小沼ほうき作り」に挑戦しました。

太い芯を糸で強く引っ張って束ね、その後はわらを交互に編み込んでいきます。最後は余分な部分を大きな包丁で切断し、苦労の末やっと、世界に１本しかない自分だけの「小沼ほうき」が完成しました。

児童のみなさんは、今回の学びや経験を通じて、地域の文化の大切さや魅力をより深く実感したことと思います。

常盤小学校は、令和７年度から「城北小学校」に統合されます。新しい学校で５年生となるみなさんは、思い出深い学校とはお別れしますが、「自分の小沼ほうき」でお世話になった校舎をきれいに掃除することを、楽しみにもしているそうです。

取材協力：飯山市立常盤小学校　講師　涌井喜美子

ほうきの芯の巻き方の指導

ほうきの芯を力いっぱい巻く作業

完成した小沼ほうき